

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

発行 東京勤労者医療会 代々木病院1部60円
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
TEL 03(3404)7661
E-mail address yo\_sosiki@tokyo-kinikai.com
友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

安保関連法案、まだ阻止できる

衆議院強行採決が法案成立ではない

日本を海外で戦争させるようにする安保関連法案が、7月16日自民党・公明党により、衆議院で強行採決されました。これに対し法案成立反対を求め、る声は全国各地で高まっています。憲法9条に反するこの法案について、代々木総合法律事務所の弁護士三浦佑哉さんに説明してもらいます。

【安保関連法案、まだ阻止できる！】

衆議院強行採決≠法案成立

法律の作り方は2通り

方法1 同一の会期内に衆議院と参議院の両方で過半数の賛成多数で議決

方法2 参議院が衆議院から法案を受け取っても60日以内に議決しない場合、衆議院の2/3以上の賛成で再議決(60日ルール)

衆議院を通過しても、参議院で可決されなければ法案成立しない。参議院でグダグダ60日経っても、衆議院で再議決しない限り成立しない。

「明日の自由を守る若手弁護士の会」作

戦争法案(安保関連法案)が、ついに衆議院特別委員会と衆議院本会議で強行採決されました。「戦争は反対!」「憲法違反だ!」「慎重な審議を!」という多くの国民の声を一切無視して行ったこの強行採決は、民主主義(国民主権)の破壊行為であり、絶対に許すことはできません。

この戦争法案は、「いつでも」「どこでも」自衛隊を海外へ派兵することで、日本を「戦争する国」にしてしまう法案です。憲法9条は、かつての戦争で罪のない多くの血が流れたことを深く反省し、ようやくようやく手に入れた私たちの宝物です。安倍政権という一時の危険な政権により、この宝物を破壊されてしまふことは、絶対に阻止しな

なければなりません。「抑止力を高めれば、日本はもっと平和になる」と安倍首相は述べていますが、武力で平和をもたらすことはできません。そのことは、アフガン・イラク戦争開始後の惨状、連日のようなテロの発生、イスラム国の台頭をみれば明らかで、世界の常識です。アメリカの戦争に巻き込まれれば、日本人がテロや報復の脅威にさらされることは誰がどう考えても分かることです。



7月10日に行われた学習会で説明する三浦弁護士



真剣に学ぶ参加者たち

衆議院を通ったとしても、あきらめる必要は全くありません。①参議院で可決させず、②衆議院で再可決(過半数ではなく3分の2が必要)させなければ、良いのです(図参照)。

「いくら反対をしても、衆議院と同じように強行採決をするんじゃないの?」とおっしゃる方もいますが、強行採決直後の世論調査では、安倍政権の支持率が急落し、不支持が過半数に達しました。安倍政権は、反対の声が更に高まるのではないかと怯えに怯えています。しかも、安倍政権はこの夏の間に、原発再稼働、70年談話など大きな爆弾を抱えています。私は、皆で一緒に頑張れば、絶対に戦争法案の成立を阻止できると思います。あの時もっと頑張っておけば良かったと後悔しないために、最後まで共に頑張らしましょう!

たまりば歌サロン開店

精神科デイケア 武藤千絵 (精神保健福祉士)



6月30日の蒸し暑い屋下がり、大きな電子ピアノを担ぎ私たちハートビートコーラスは、近くの神宮前の地域交流サロン「たまりば」へ向いました。

道中の不安をよそに待ちわびて下さった参加者の方々の温かい笑顔。一緒に大きな口を開けての発声練習後は懐かしの3曲を一緒に歌い、ハートビートコーラスが一曲披露。地域の方と溶けこんだ瞬間です。今後も歌で地域との絆が深まりそうです。

千駄の萱

戦争は何を国民に与えるのだろうか。知りたくなって早乙女勝元著「東京大空襲」(1971年岩波新書)をわが家の本棚から見つけてきた。それは直接取材した8人の下町庶民の証言をもとに「昭和20年3月10日を忠実に採録し」たものだ。300機を超えるB29が「中心地では1mあたり少なくとも3発以上」の焼夷弾の豪雨を降り注いだ。その地上では何が起きていたのか。読み進めることができない場面もある。二度とこのような悲惨なできごとが起きてほしくないと思う▼自衛隊の集団的自衛権行使は外国の街を破壊することに手を貸すことだ。決して加害者になってはならない▼第二次世界大戦について被害者の立場から発言し、またある人は加害責任を問う。しかしどちらにしても人が殺し殺され、人びとの恨みの連鎖が始まることは避けられない。国の支配者が「勝った負けた」ということに関わらず▼どんなに正義をかざしても、人を殺すことは正当化されない。「戦争だから」仕方がないのではなく、大変だけれど戦争をしない勇気と努力こそ一番の近道ということを肝に銘じるべきである。(み)